

第4回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会

【目次】

- 1 これまでの検討会のふりかえりp2
- 2 成果指標の設定についてp6
- 3 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案
5章 重点的に進める取組p17

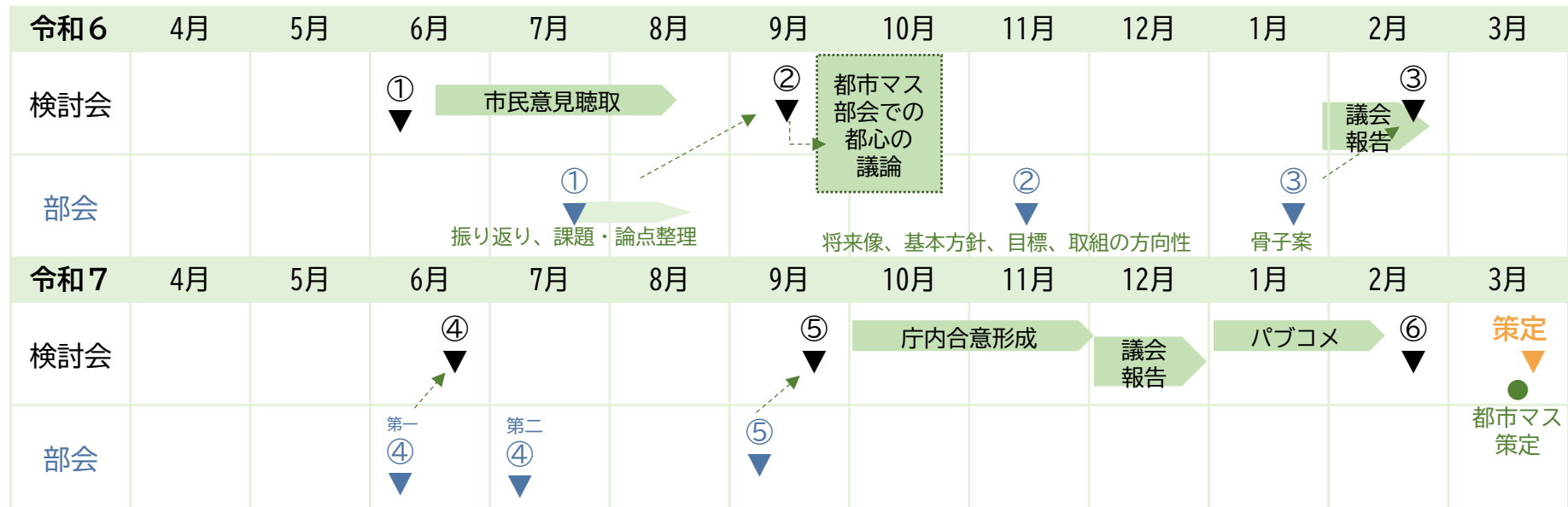
2025年6月30日

札幌市 都心まちづくり推進室



1 これまでの検討会のふりかえり

(1)スケジュール・進め方



検討会での検討テーマ（案）

令和6年度	第1回	経緯、論点整理、進め方
	第2回	目標、将来像、都心の構造の整理
	第3回	取組の方向、取組の進め方
令和7年度	第4回	重点的に進める取組、指標、素案
	第5回	計画案、（計画策定後の主な取組）
	第6回	最終案、計画策定後の主な取組

部会での検討テーマ（案）

令和6年度	第1回	課題認識、見直しの視点の整理
	第2回	基本方針、目標、取組の方向性
	第3回	骨子案
令和7年度	第4回	素案
	第5回	計画案、計画策定後の主な取組

※R7の
下線は
変更部
分

(2)第3回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会(令和7年2月27日開催)での主な意見

論点	委員意見の抜粋	主な対応
全体を通して・構成など	● 第3章と第4章の内容が分かりにくいため、構造を整理し、目標と骨格構造の関係を明確にする必要がある。 ● 札幌のまちづくりにおいて、地域のストーリーを描くことが重要。札幌ならではの背景や課題を明確化し、四季を生かしたまちづくりを推進するべき。 ● 目標1、2は目標3が土台となって実現されているというストーリーが描けるといいのではないかな。 ● 2計画の統合により、相乗効果が期待できる取組もあると思う。 ● それぞれの目標や軸の取組が多く挙げられているが関係性等を整理するとよい。 ● 地域、ゾーン、エリア、拠点の使い分けを明確にし、市民に分かりやすくする。言葉の使い分けが混乱を招く可能性があるため、精査が必要。	ご意見を踏まえ、次回提示予定の計画案にて、整理してまいります。
2章 現状と課題	● 現在進行形の課題と未来の課題を分けて検討したほうがよい。 ● 各地区の成果や課題を精緻に分析し、全体の方向性を明確にする必要がある。抽象的なエリア設定では戦略的な計画のマネジメントが難しい。	ご意見を踏まえ、次回提示予定の計画案にて、整理してまいります。
3章 理念と目標	● 札幌の都心が果たしてきた役割をしっかりと描いたうえで、今後の目標、ビジョンを明確にする必要がある。 ● 課題から目標が出るのではなく、札幌としてどうしたいという方向性が必要。	ご意見を踏まえて、これまで果たしてきた都心の役割や目指してきたものを計画案にも記載します。

(2) 第3回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会(令和7年2月27日開催)での主な意見

論点	委員意見の抜粋	主な対応
3章 理念と目標(指標)	● 経済活力と魅力度だけでなく、文化や交流の成果も測るべき。 ● 市民以外の観光客の意見も反映する指標が必要。 ● 固定資産税評価額は外部要因に影響されやすい。固定資産税の評価額が高くても街のにぎわいとは無関係ではないか。 ● 札幌の大学に通った若者が道外に出ていく数を減らすことが重要。 ● 偶然の出会いを創出する都市性が重要。交流を生み出す環境やコミュニティの多様性を評価指標に含めるべき。 ● 市民に分かりやすく、他都市との比較ができる指標が望ましい。 ● 施策の進捗を評価できるフレームワークを整理してアウトカムを設定したほうがよい。	P11～において、考え方を整理しました。
4章1 目標に向けた取組の方向	● 新たな産業や文化、交流を生むための条件を整理し、アイデンティティをブラッシュアップしてからブランディングやプロモーションを行うべき。	5章(重点)の中で「札幌らしさの強調」について整理いたしました。
4章2 骨格構造の取組の方向	● 軸の取組の方向をもう少しメリハリをつけて記載してはどうか。成長、文化、生活の質を担保する役割を軸の中にしっかり埋め込めるとよい。今の取組の方向だとインフラ整備の方向しか書いていないので、もう少しまちづくりや経済政策的なところも書いていったほうがいい。 ● うけつぎの軸といとなみの軸に拠点的なものがなく、移動する中で拠点がないのは目的地として発展しづらいのではないか。 ● にぎわいの軸は他の軸に比べて重要であり、交通量の減少やウォーカブルな空間の導入など、特別な扱いをするべき。	ご意見を踏まえ、次回提示予定の計画案にて、整理してまいります。 第4回第一部会資料(P22～)参照 主要検討路線及び拠点的交流空間検討箇所として整理しております。

1 これまでの検討会のふりかえり

(3)計画構成案

序章 計画策定の背景

1章 計画の目的と位置付け

2章 現状と課題

3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の基本構造

3.1 理念と目標

〈理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

〈目標〉

目標 1

多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

成果指標

目標 2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

成果指標

目標 3

気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心

成果指標

3.2 都心の基本構造

(1)骨格構造

都心まちづくりを牽引する中核的な軸と拠点



(2)エネルギー施策のエリア区分

地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア



4章 取組の方向

4.1 目標に向けた取組の方向

(1)目標1の実現に向けた取組の方向

(2)目標2の実現に向けた取組の方向

(3)目標3の実現に向けた取組の方向

4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

骨格軸

展開軸

交流拠点

展開拠点

5章 重点的に進める取組

6章 取組の進め方

仕組みと体制

連鎖的な取組の展開

(本計画策定後に整理することを想定)

中期アクションプログラム 基本方針に即した具体的取組

【取組ごとの活動指標を設定】

◎本日、ご意見をいただきたいこと

論点1 成果指標の設定について

論点2 重点的に進める取組について

前回検討会でもご意見をいただいたところではございますが、
「都心まちづくりの理念」の実現に向けて定めた3つの目標ごとに、成果指標を設定します。

〈都心まちづくりの理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

目標 1

多様なひと・もの・ことが
集まり新たな産業・文化・
交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する
高次の都市機能の集積を図り、多くの人
が集い交流し、まちの価値を高めていく取組
の好循環を展開することで、国際競争力を
備えた都心を実現します。

成果指標

本検討会にて議論

今回の論点

目標 2

冬でも、誰でも、
まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬
季においても、訪れる人それぞれが安心・
快適に過ごせ、交流できる居場所があり、
歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化
が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽し
める都心を実現します。

成果指標

第一部会でも議論

目標 3

気候風土に即した
先進的な取組により脱炭
素化・強靱化が進む都心

札幌特有の気候や地域特性に応じたまち
づくりとエネルギー施策の一体的な取組の
展開により、将来に渡り発展し続けると
ともに安全・安心な都市活動を支え、世界か
ら信頼される持続可能な都心を実現します。

成果指標

2050年のCO2排出量
(目標値)実質ゼロ

《2013年度比で100%削減》

前回提示済

目標2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

「春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心」

成果指標
(案)

- 回遊性を評価 → 主要地点における歩行者交通量
- 満足度を評価 → 「まち歩きが楽しめる通りや場所が多い」と評価している人の割合

<成果指標とは別にモニタリングを行う指標(案)>

評価の視点	モニタリング指標(案)	調査方法
①安全・安心	交通事故件数	統計データ
②快適	「気軽に休憩・滞在ができる場所が充実し、利用しやすい」と評価している人の割合	アンケート調査
④居心地の良さ	公開空地の箇所数、面積	個別調査
⑤歩きやすさ	歩道バリアフリー整備率	個別調査
	地下接続しているビル数（地下歩行空間と接続し、段差なく利用できるビル数）	個別調査
⑥緑化	緑被率・緑視率	個別調査
⑦にぎわい	冬の歩行者交通量（相対比較）※要詳細検討	ビッグデータ
	都心における駅乗降人員（主要駅の乗車人員を算出）	統計データ
⑨その他、全般	来訪者の滞在時間 ※要詳細検討	ビッグデータ

目標2の成果指標について

○ 成果指標（案）について、これまでの推移等を踏まえて、現況値（基準値）と目標値を設定する。

成果指標
（案）

- 主要地点における歩行者交通量の平均値
※地上と地下の約50地点

年度	歩行者交通量（人／日）
H29（2017）	約17,500
H30（2018）	約17,000
R1（2019）	約17,300
R2（2020）	約13,600
R3（2021）	約11,900
R4（2022）	約14,300
R5（2023）	約17,500
R6（2024）	約18,800

【考察】

- ・新型コロナの影響により、R2からR4には歩行者交通量が一時的に減少したものの、現在はコロナ前の水準まで回復している。

成果指標
（案）

- 「まち歩きが楽しめる通りや場所が多い」と評価している人の割合

年度	評価している人の割合（％）
R3（2021）	57.2
R4（2022）	52.3
R5（2023）	58.3
R6（2024）	60.6

【考察】

- ・アンケート調査のため、各年度の調査対象の違い等による変動も一定程度含まれていると推測される。
- ・目標値を論理的に設定ができるほど、データ数が揃っていない。

目標値
（案）

【現況値】18,800人／日（R6年度）
【目標値】20,500人／日（R26年度）

【考え方】

- ・人口減少（2025：約197万人→2045年：約179万人の約9%減少）が予想される中でも、来街者の総量の増加を目指す。
- ・「18,800人／日（現況値）×91%（人口減）×120%（来街者の増加目標）＝約20,500人／日」を目標値とする。

目標値
（案）

【現況値】60.6%（R6年度）
【目標値】70.0%（R26年度）

【考え方】

- ・他都市の類似の指標と比べると現況値が比較的高い数値であることを踏まえつつ、他都市のウォークアブルに関する評価事例を参考として、60.6%（現況値）から約10%増の70.0%を目標値とする。

論点

第一部会での委員意見の抜粋

「質」の視点

- 公開空地の「数」よりも、使われ方の「質」を測るべき。
- 指標の選定が「データ取得の容易さ」に偏っている。数値で示すだけでなく、質的評価や季節性も考慮すべき。

主観を正確に捉えるための工夫

- 物的な評価と主観的な評価がリンクしていることが大切。主観を正確に把握するために、テキスト分析を見据えたアンケート設計が必要。
- 主観的なものを測る際には、中間を捉えることが重要（中間的なにぎわいが、大多数の人にとって心地良い）。感じ方には、地域、季節、設え、街並みなどが影響してくることから、導き出したい答えに対応するデータを取得することが大切。
- 居心地の良さやにぎわいの感じ方については、主観に差があるため、仮説やアクションを設定すべき。

追加すべき要素

- 単純な滞在時間ではなく、「滞在時間×人数」で捉えるべき。居心地の良さは滞在時間につながる。
- 都心全体で測ることが難しいものについては、部分的にでも主観的評価を測り検証の幅を広げるべき。
- 自転車と歩行者がどれだけ交わっているかや、歩行者に開かれた1階の店舗がどれだけあるかも重要な要素。

委員意見を踏まえた事務局対応案

- ①成果指標、②モニタリング指標、③中期アクションプログラムにおける活動指標、について本計画における位置づけを明確にします（次ページにて整理）。
- 委員から意見があった、質的評価をより強化することや、主観をより正確に捉えるための工夫については、モニタリング指標設定の過程において反映・整理を図るとともに、必要に応じてモニタリング指標の追加や見直しも行うことで、目標の実現に向けた取組の検討に活かしていくこととします。

本計画及び中期アクションプログラムにおける指標の種類について

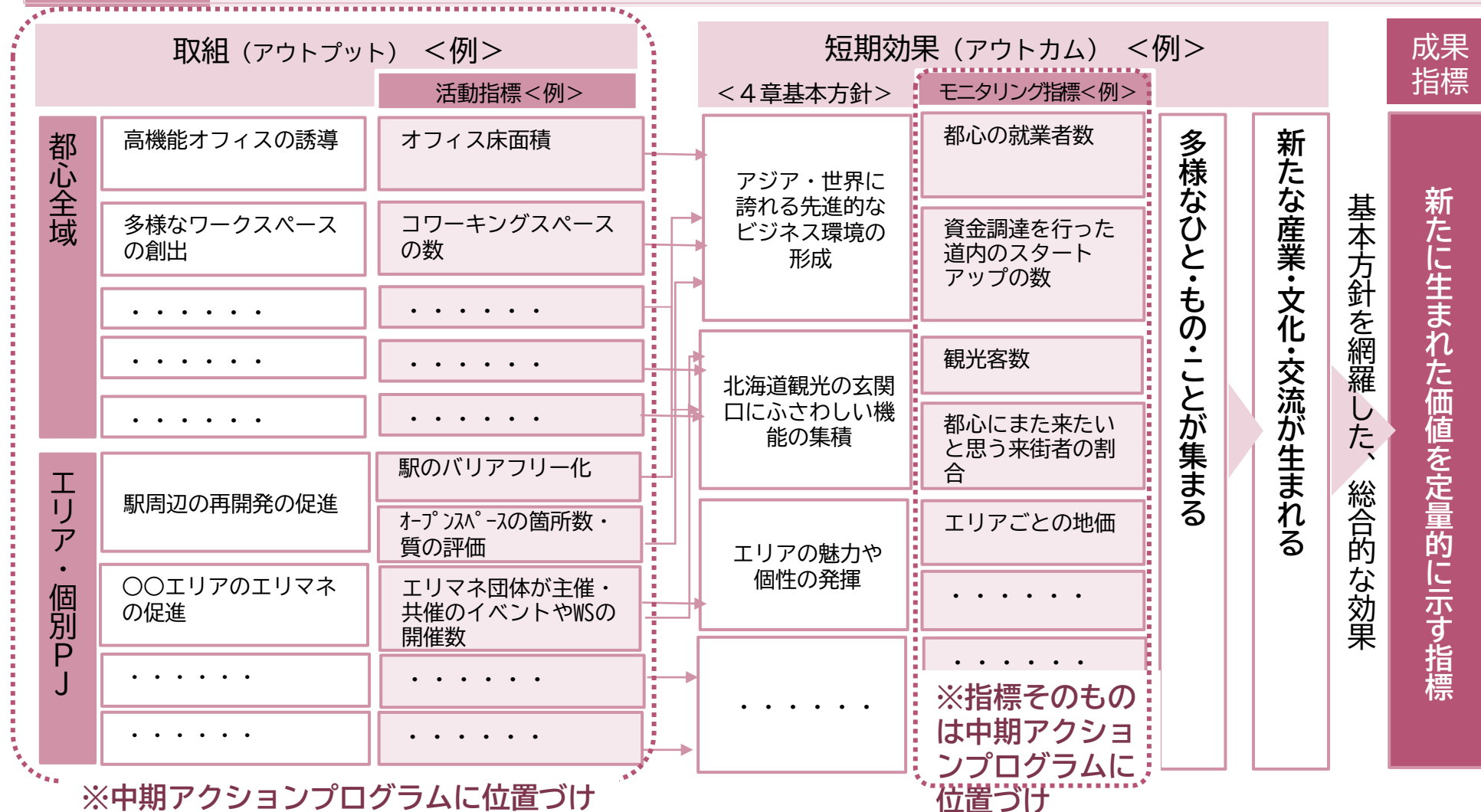
位置づけ	種類	期間	役割	目的	運用
計画本書で定めるもの	成果指標	計画期間中（20年）、すえおき	【長期アウトカム指標、インパクト】 多様な取組の効果の積み重ねを総合的にとらえ、都心全体の長期的な成果を評価するもの	進捗と効果を可視化・定量化し、まちづくりの成果を市民にわかりやすく示す	推進委員会にて進捗管理を行う 都心まちづくりに関わる関係者間で共有・分析し、検証する
中期アクションプログラムで定めるもの	モニタリング指標	計画期間中、適宜追加・見直し	【短期アウトカム指標】 取組によって生じた変化を測るとともに、都心の現状を把握するもの	質的な変化や主観的な実感も組み合わせ、新たな課題への対応など柔軟に検討する	
	活動指標	5年ごと見直し	【アウトプット指標】 取組ごと、エリアごとのプロジェクトなどにおける直接的な成果をはかるもの	取組のPDCAサイクルを回し、次のアクションにつなげる	

- 成果指標の設定にあたっては、各目標に紐づく様々な取組の効果を総合的にとらえるもの、都心全体について計測できるもの、現状値との比較が可能なデータであり、一定程度の継続性・信頼性・取得の容易性があるものという観点から選定。
- 成果指標は主に長期的かつ総合的な成果を評価するためのものであることから、短期的かつ取組ごとの変化を捉えるモニタリング指標と成果指標とを併せて分析・検証していく。
- モニタリング指標は、調査手法を含め実態に合わせ柔軟に見直しができるよう、計画本書ではなく中期アクションプログラムに位置づける。

目標1の成果指標の設定について

前ページの指標の種類に基づき、目標1に関連する、これまでの検討会等で挙げられた指標案の整理を試みました。

目標1 多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心



2 成果指標の設定について

目標1の成果指標の設定について

P11、12を踏まえ、目標1の成果指標を以下の通り設定します。

新たに生まれた
価値を定量的に
示す指標

企業等の生産活動によって新たに生み出された
価値を示す＝付加価値額

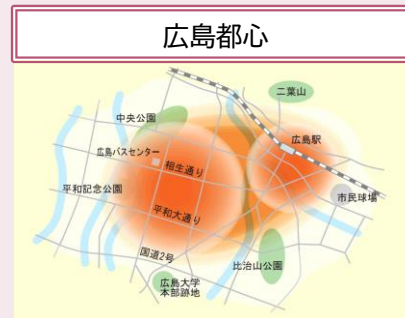
成果指標

都心における純付加価値額

- ・ 都心の範囲（条丁目単位）を指定し算出することが可能→都心全体について計測できる
- ・ 経済センサスのデータであり、全国一律の調査であるため、他都市の都心との比較も可能
→現状値との比較が可能なデータであり、一定程度の継続性・信頼性・取得の容易性がある

- ・ 取組の効果をはかるには、社会経済状況による変動も考慮し、他都市や全国平均の推移との比較をみていく必要がある
⇒札幌と経済規模が比較的同程度で、地方の中心都市という共通点がある右記3都市と比較する

（各都市の都市計画マスタープランにて「都心」と位置付けられた範囲で比較）



純付加価値額現況値 ※経済センサス-活動調査より算出 (億円)

	H24	H28	R3
①札幌都心	10,491	11,659	12,538
札幌全市	31,973	39,099	41,708
②仙台都心	10,917	12,802	12,367
③広島都心	7,249	8,157	8,372
④福岡都心	17,864	21,335	22,015
②～④平均	12,010	14,098	14,251
東京23区	497,576	548,613	1,056,581
全国(※)	1,948,762	2,346,742	2,306,014

純付加価値額上昇率

	H24→H28	H28→R3	H24→R3
①札幌都心	11%	8%	20%
札幌全市	22%	7%	30%
②仙台都心	17%	▲3%	13%
③広島都心	13%	3%	15%
④福岡都心	19%	3%	23%
②～④平均	17%	1%	19%
東京23区	10%	93%	112%
全国(※)	20%	▲2%	18%

目標値

**R3→R23の
3都市平均以上の
上昇率**

(例) R3→R23
3都市平均30%上昇の場合
⇒札幌都心: 30%以上の上昇

(※)東京23区を除く

目標1の成果指標・モニタリング指標の設定について

P11～13を踏まえ、目標1の成果指標、モニタリング指標を以下の通り設定します。

目標1

多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

成果指標
(案)

都心における純付加価値額

(目標値)
R3→R23の3都市平均以上の上昇率
※3都市…仙台、広島、福岡

<主なモニタリング指標(案)>

目標1の基本方針(視点)	モニタリング指標	調査方法
アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成	都心の就業者数	統計データ
	資金調達を行った道内のスタートアップの数	個別調査
北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積	観光客数(ただし、全市)	統計データ
	都心にまた来たいと思う来街者の割合	アンケート調査
多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実	都心で過ごす滞在時間	※検討中
	主要スポットの口コミによる評価	※検討中
地域特性に応じた機能の誘導	用途別土地利用状況	統計データ
エリアの魅力や個性の発揮	エリアごとの地価	統計データ
みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成	都心部の公共施設や民間施設の緑化が足りていると感じる市民の割合	アンケート調査
全体 (多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心)	都心が魅力的だと思う市民の割合	アンケート調査
	都心の固定資産税	統計データ

目標と成果指標

以上のことから、本計画に定める成果指標は、多様な取組の効果の積み重ねを総合的にとらえ、都心全体の長期的な成果を評価する視点で以下のとおり設定します。

他の視点は、中期アクションプログラムで定めるモニタリング指標により補完します。

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

目標 1

多様なひと・もの・ことが 集まり新たな産業・文化・ 交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

成果指標

都心における純付加価値額

(目標値) R3→R23の3都市平均以上の
上昇率

※3都市…仙台、広島、福岡

目標 2

冬でも、誰でも、 まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心を実現します。

成果指標

主要地点における歩行者交通量

(目標値) 20,500人／日(R26年度)

「まち歩きが楽しめる通りや場所が多い」と評価している人の割合

(目標値) 70.0%(R26年度)

目標 3

気候風土に即した 先進的な取組により脱炭 素化・強靱化が進む都心

札幌特有の気候や地域特性に応じたまちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全・安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。

成果指標

2050年のCO2排出量

(目標値) 実質ゼロ
《2013年度比で100%削減》

今回の論点

論点1:指標について、本日特にご意見をいただきたいこと

- 目標1及び2の成果指標、目標値について一定の方向性を見い出したいことから、代替案含めご意見をいただきたい。
- 成果指標を補うモニタリング指標へ追加検討すべき項目について、ご意見をいただきたい。

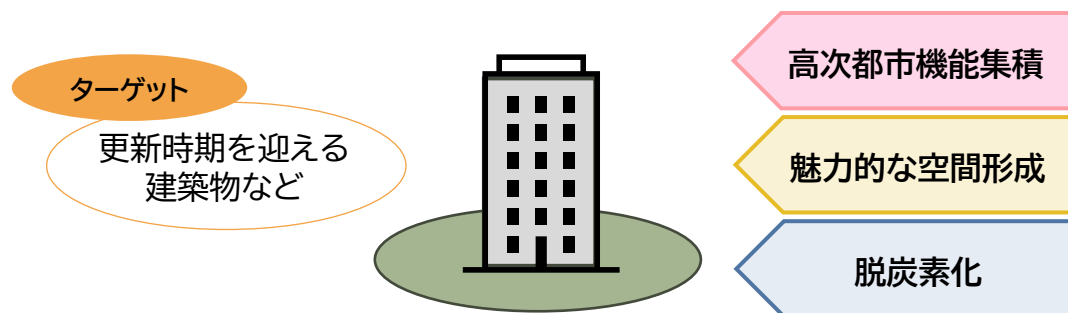
◎本日、ご議論いただきたいこと

論点1 成果指標の設定について

論点2 重点的に進める取組について

5.1 取組を進めるにあたって重視する考え方

- これまでも更新時期を迎える民間建築物などに対して、良好な開発となるよう様々な取組を通じて誘導・調整してきたところですが、今後、3つの目標を実現するためには、**まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性を高めることが重要です。**
- 今後は各取組の強化とともに取組間の連携を強め、まちづくりとエネルギー施策が相互に補完しあう仕組みを構築します。
- それをわかりやすく発信し、事業者に対して理解を促し、建替等の機会を通じて目標の実現につながる取組を一体的に誘導していきます。



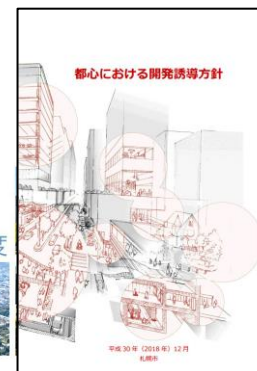
<今後の取組例>

まちづくりとエネルギー施策を一体的に誘導するため「札幌都心E！まち開発推進制度(Eまち制度)」を発展、強化

【参考:現行の取組】

Eまち制度を通じた取組誘導と支援策の一体的な展開

- ・「都心における開発誘導方針」に基づく容積率緩和
- ・「ゼロカーボン推進ビル認定」による立地促進補助の割増し



5.1 取組を進めるにあたって重視する考え方

- ・ 良好な開発に向けて（目に見える）札幌らしさを強調することも重要です。
- ・ 企画設計・運用上の視点において、特に配慮すべきポイントを示します。

ひと

空間を使う“ひと”を中心に考える
（活動主体になるプレイヤーを含む）

<取組例>

- ・多様な利活用を実現するパブリックスペースの創出と運用
- ・街路と沿道が一体となった空間形成
- ・通過交通の分散等やアクセス環境の確保



目標2
と関連



目標1
と関連

【参考イメージ】
南1条通社会実験

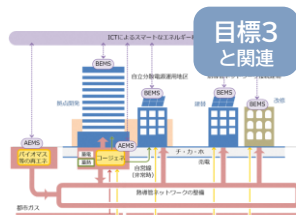
【参考イメージ】エレベーターの新設
(札幌市 札幌市バリアフリー基本構想)

ゆき

雪や氷の活用、冬の快適性の向上により、札幌の魅力・活力となるように考える

<取組例>

- ・雪、冬季の景観への配慮
- ・冬季の空間活用の工夫
- ・積雪寒冷地に適した建物の省エネ化
- ・エネルギーネットワークインフラの活用



ZEB化、ZEH-M化
エネルギーネットワークインフラの活用



目標2
と関連

【参考イメージ】
北三条広場(アカプラ)の
スケートリンク

みどり

まちの価値を高める
みどりの充実を考える

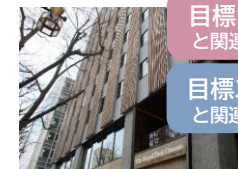
<取組例>

- ・良質で豊かなみどりの空間の創出
- ・みどりと調和した木材利用の促進
- ・みどりや木質化を強調したブランディング(持続可能な環境に配慮したまち→GX投資にも繋げる)



目標2
と関連

【参考イメージ】
建物と調和した並木



目標1
と関連

目標3
と関連

【参考イメージ】
木材を活用した建物
(ザ ロイヤルパークキャンパス札幌大通公園)

【札幌市最上位計画】
第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン
＜目指すべき都市像＞

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、
豊かな暮らしと新たな価値を創る、
持続可能な世界都市・さっぽろ

5.1 取組を進めるにあたって重視する考え方

- 建物単体で考えるのではなく、**公共と民間の取組が共鳴し、相乗効果をもたらすことが求められる**ため、取組を進める際のポイントを3つ示します。



社会実験と市民議論

社会実験等により使い方・使われ方を検証し、周辺地権者・市民等と合意形成をはかりながら、よりよいものをつくり、運用していく

エリアまちづくり

道路・エネルギーネットワーク等の基盤を含む地域特性を踏まえ、周辺地権者とともに中長期的なエリア価値の向上に努める
(エリアまちづくりを推進するさらなる支援策の検討)

既存ストック活用

新築に限らず改修も視野に、地域資源や既存インフラを活かしながら、課題や目的に応じた最適な手法を検討する
(規模等に応じた、きめ細かく機動的な対応や支援を検討)

5.2 重点的に進める取組

これまでの検討会・各部会で示した目標ごとのエリアや路線設定を振り返ります。

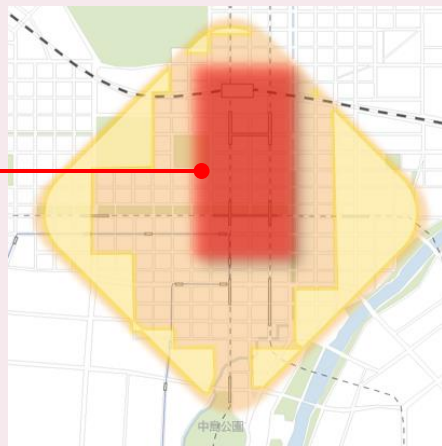
目標1 関連

2/27 検討会 提示資料

基本方針1-1-4 地域特性に応じた機能の誘導より

都心機能強化先導 エリア

高次な業務、商業、交流機能等の集積と、環境・防災性能の向上

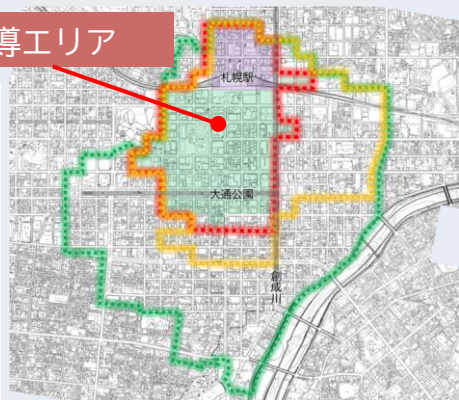


目標3 関連

2/27 検討会 提示資料

脱炭素化・強靱化先導エリア

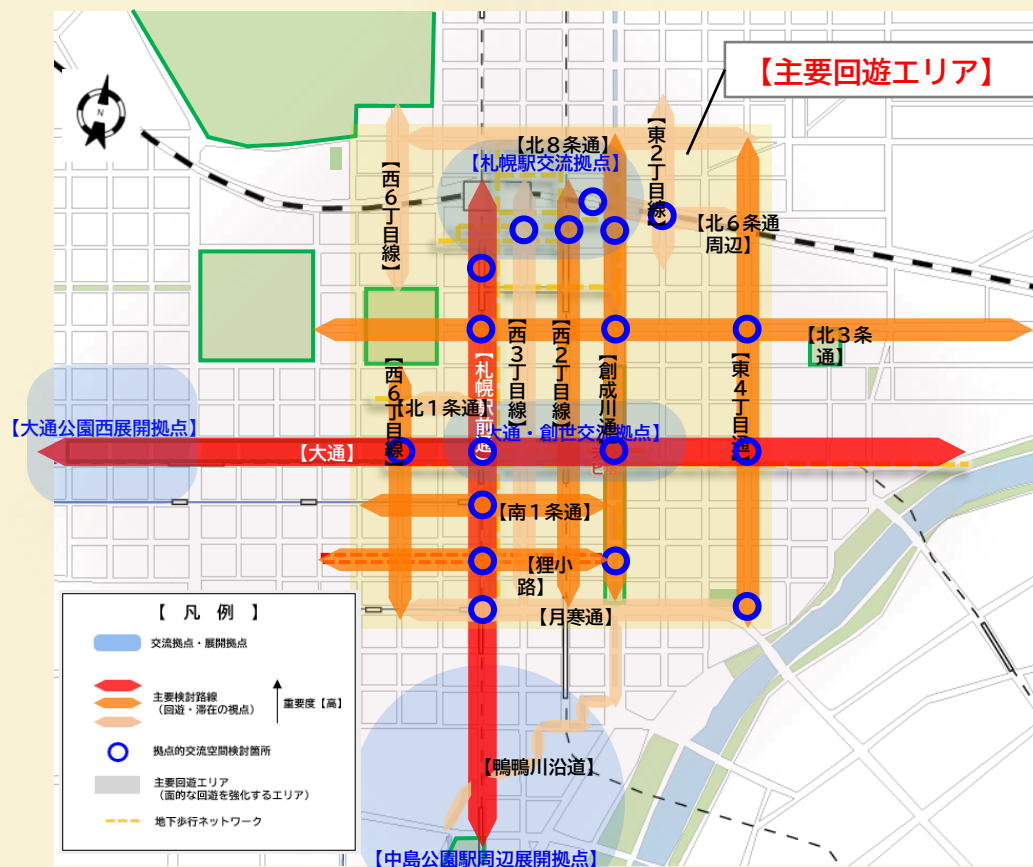
- 大規模開発等と連動したエネルギーセンターの整備
- 熱供給ネットワークインフラへの接続
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターの脱炭素化に向けた新技術の導入



目標2 関連

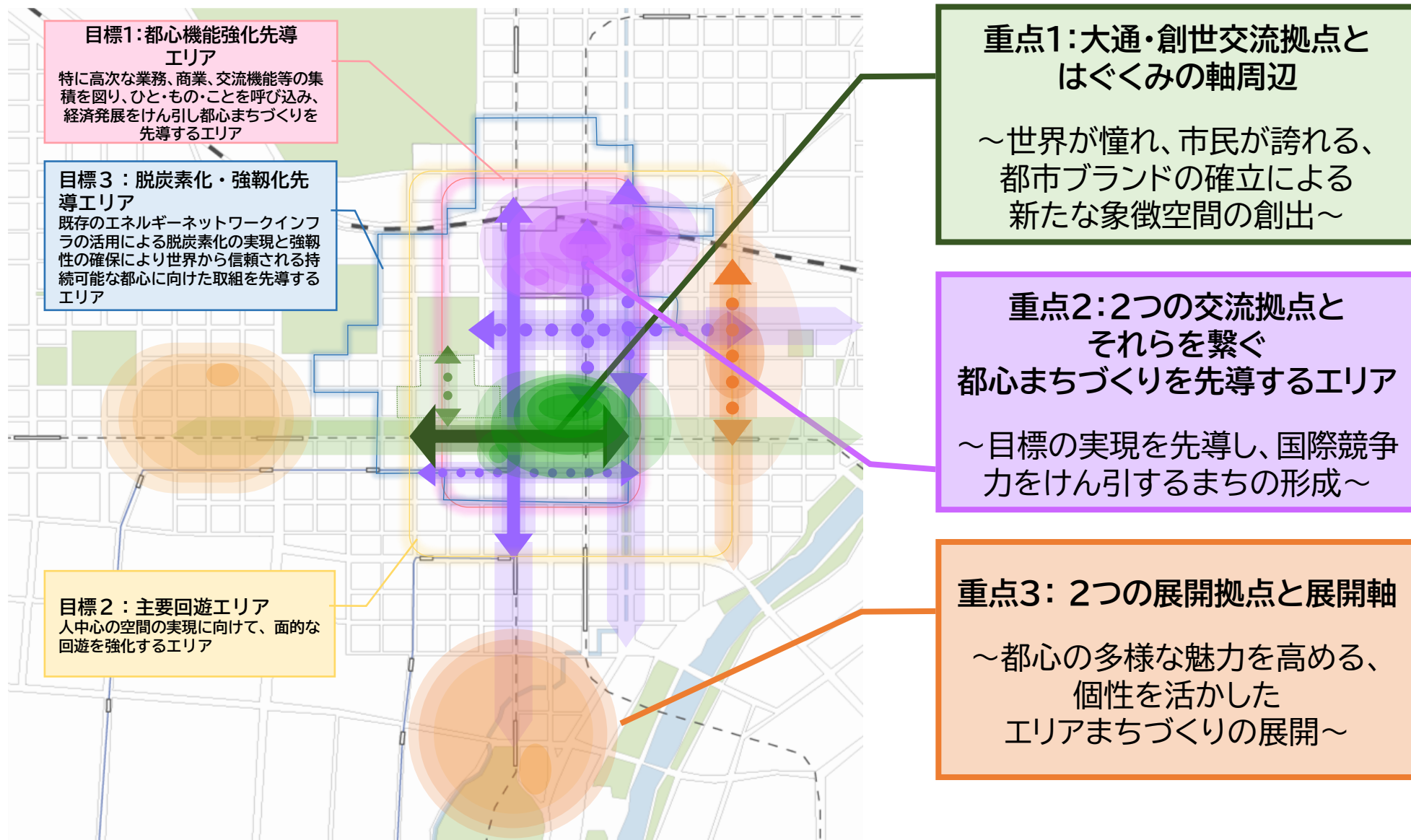
6/13 第一部会 提示資料

空間形成指針に則り、回遊・滞在の視点で機能向上をはかるための主要回遊エリアと、主要検討路線



5.2 重点的に進める取組

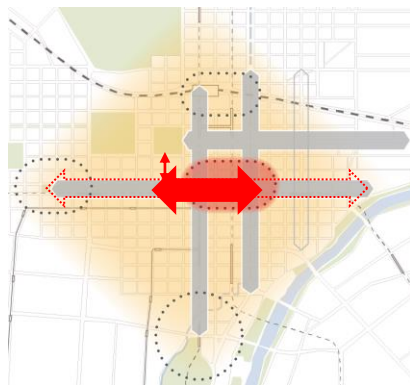
前ページの内容を踏まえつつ、今後の計画期間で、波及・連鎖していく可能性が高く、重点的に推進していくべき取組について示します。



5.2 重点的に進める取組

(1)大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

～世界が憧れ、市民が誇れる、都市ブランドの確立による新たな象徴空間の創出～



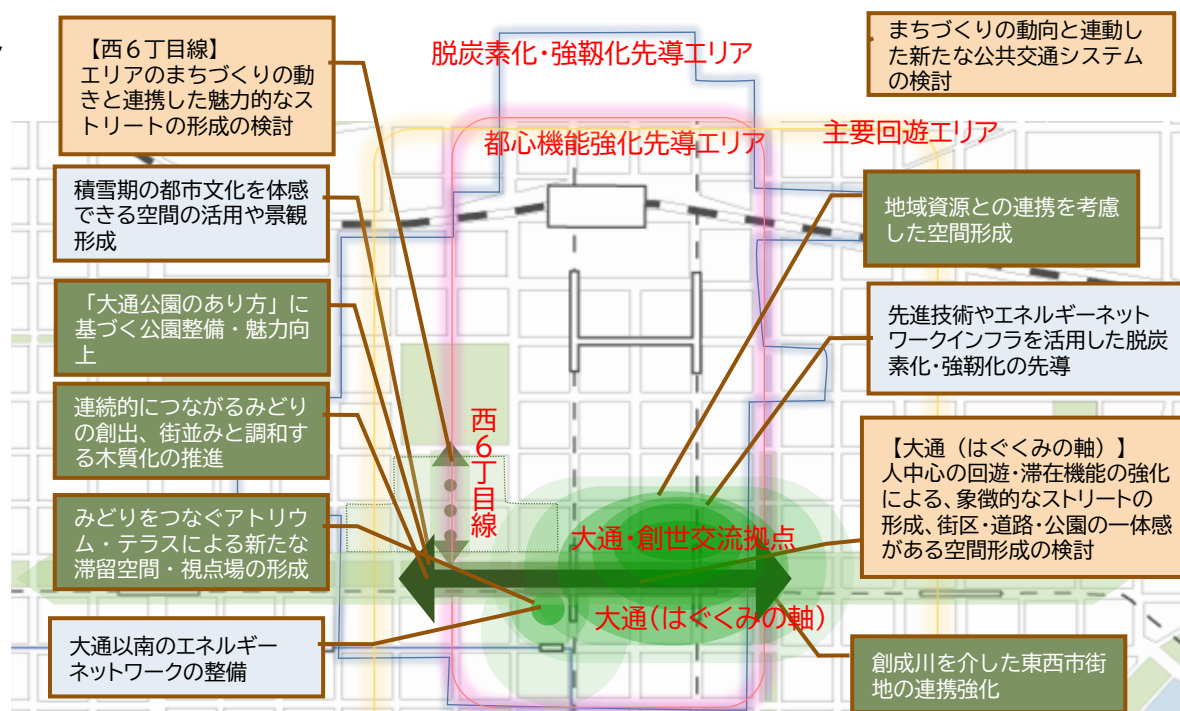
重点にする理由・ねらい

●大通公園をはじめとした札幌を代表する地域資源が集積し、国内外からの来街者も多く集まるため、取組による高い効果が期待できる

●次の20年で官民の連鎖的な開発と相互連携によって、街区・道路・公園を一体的に動かしていくべき場所

⇒多くの来街者の滞留や交流、様々な活動が生まれ、新たな価値を創造する

⇒豊かな時間を過ごせる優れた都市文化を醸成し、市民の生活の質を向上させるとともに都市ブランドを確立する



今後の進め方

官民で共有するまちづくりの方向性の整理

市有地の利活用による複数街区での連鎖開発

象徴空間の創出

大通・創世交流拠点

大通及びその周辺のまちづくり方針
－札幌都心はぐくみの軸強化方針－（R5策定）
に基づく将来像の実現

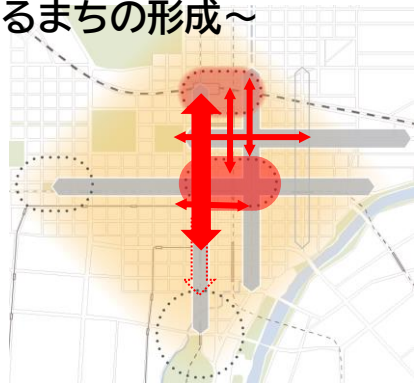
<西Aゾーンの強化の考え方イメージ>



5.2 重点的に進める取組

(2)2つの交流拠点とそれらを繋ぐ 都心まちづくりを先導するエリア

～目標の実現を先導し、国際競争力をけん引するまちの形成～

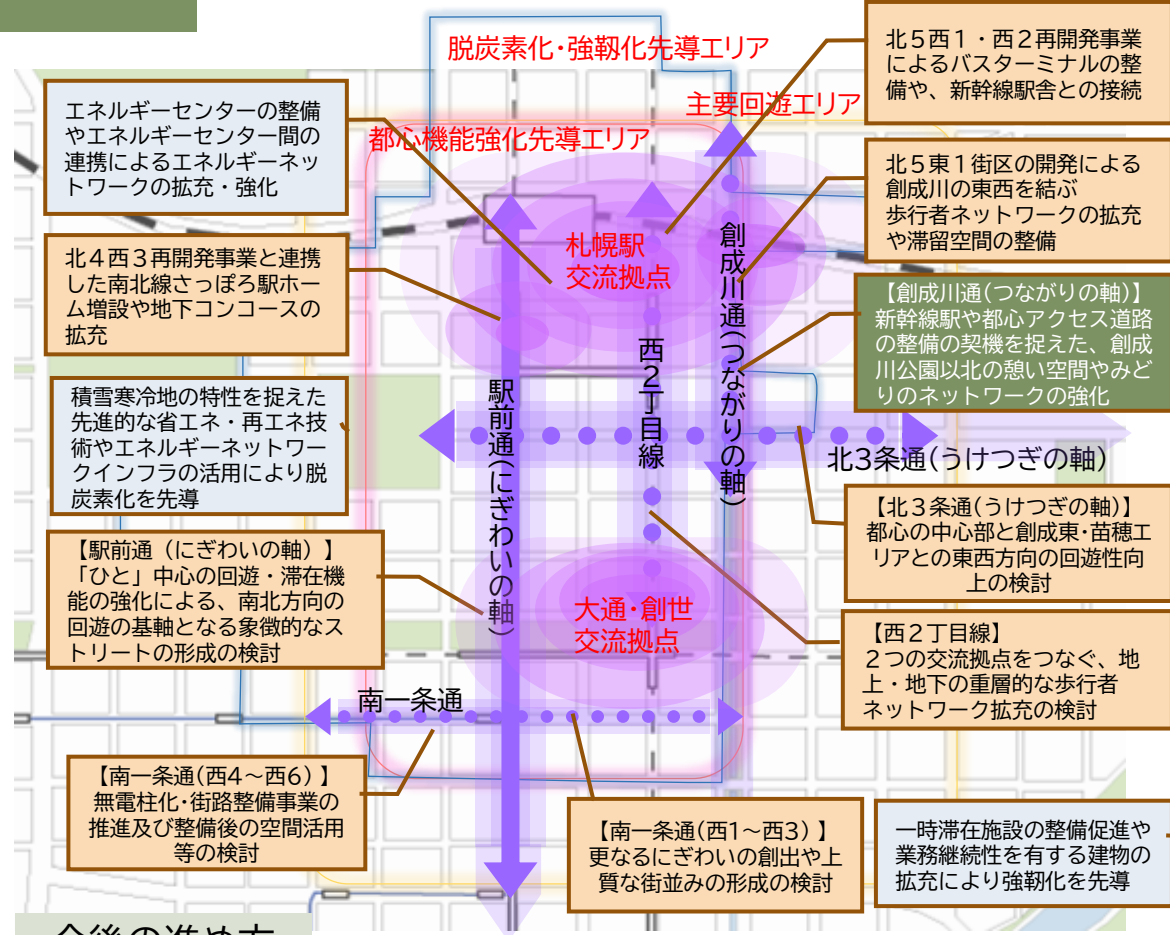


重点にする理由・ねらい

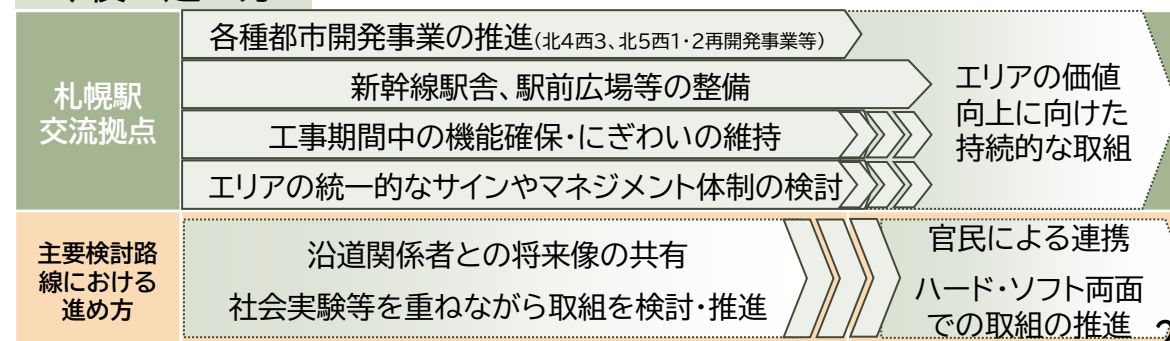
●高次都市機能集積、エネルギーネットワーク、歩行者ネットワーク、エリアマネジメントなどこれまでの取組の状況から、目標1・2・3を一体的に具現化・高次化していくエリア

●札幌の玄関口としてまちのブランディングへの影響が大きく、ゆきやみどりを活かした景観やひとの活動がみえる、札幌らしい魅力的な空間を形成することが重要

⇒都心まちづくりを先導し、エリア価値を高め、都心全体や他のエリアへその効果を波及させる



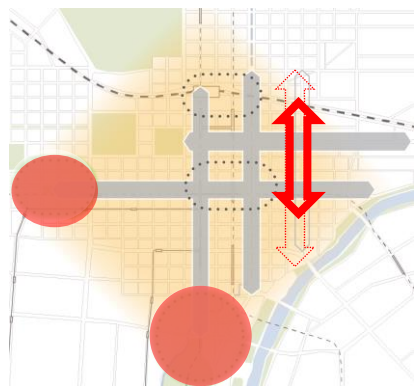
今後の進め方



5.2 重点的に進める取組

(3)2つの展開拠点と展開軸

～都心の多様な魅力を高める、個性を活かしたエリアまちづくりの展開～

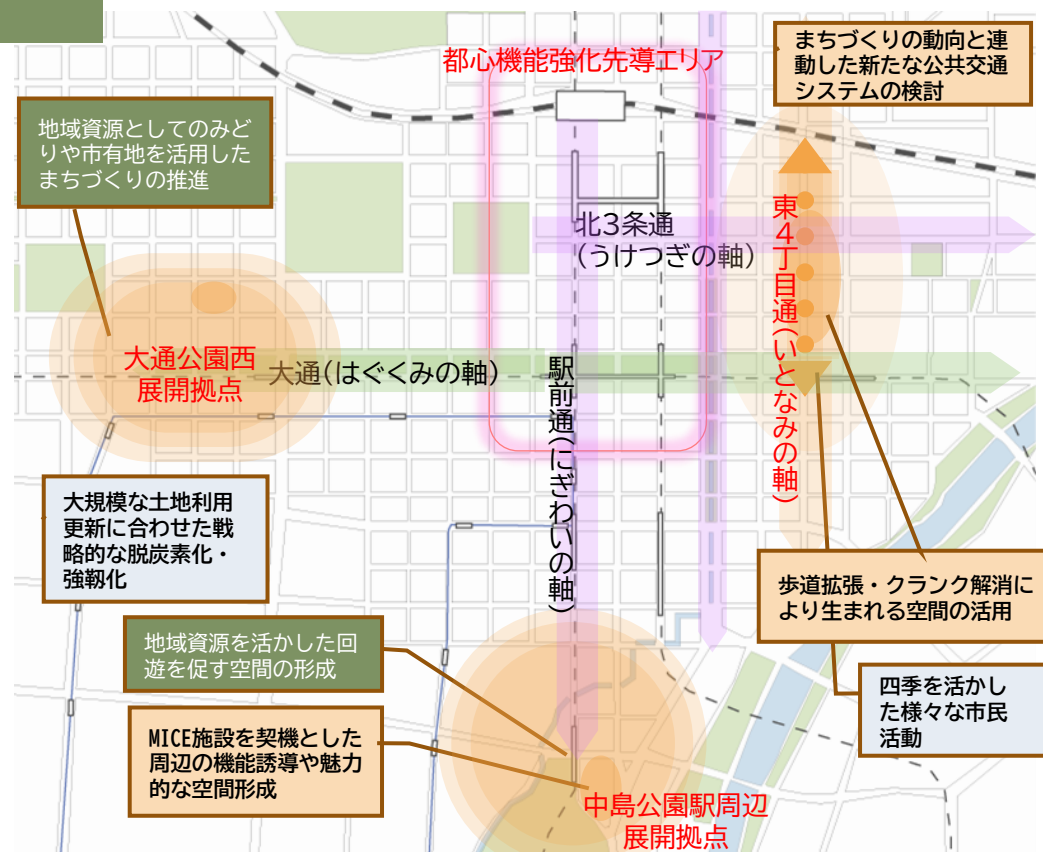


重点にする理由・ねらい

●都心のコア(都心機能強化先導エリア等)とは異なる特徴・役割を明確にし、その特性に応じたまちづくりと脱炭素化を一体的かつ戦略的に進め、拠点・基軸としての独自性・存在感を高めることが求められる

⇒多様なニーズに応え、都心全体の魅力を厚みのあるものとする

⇒魅力的な目的地となり、都心全体の回遊を促進する



今後の進め方

東4丁目通 (いとなみの軸)	街路整備事業の推進		道路空間、 沿道との一体活用
	エリマネ団体の組成		
大通公園西 展開拠点	市有地(芸文館跡地)利活用検討		
	地域意見聴取 機運醸成	ガイドライン策定	ガイドラインに基づく 民間建物の誘導等
	MICE施設整備検討		
中島公園駅 周辺展開拠点	地域意見聴取 機運醸成	ガイドライン策定	ガイドラインに基づく 民間建物の誘導等

展開拠点におけるまちづくりガイドライン策定に向けた今後の検討

●大通公園西展開拠点

策定の目的

当エリアのまちづくりの目標や空間形成の方針を取りまとめ、地域等と共有しながらまちづくりを進めるため策定を行う。

検討の方向性

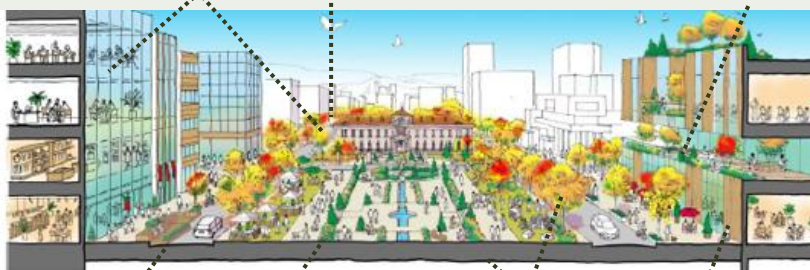
大通及びその周辺のまちづくり方針(R5策定)

【西Cゾーン 強化の考え方】

都心西側の回遊拠点を形成し
美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ

【想定される取組例】

<資源を活かした景観> <象徴性の継承> <連続的につながるみどり>



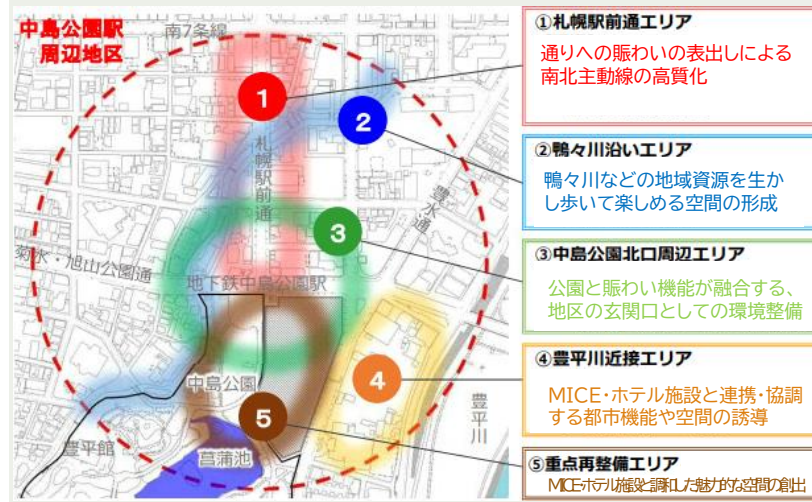
<居心地が良く歩きたくなるまち> <心身の健康増進> <創造と交流の好循環> <脱炭素化の推進>

- 上記方針をベースに、地域資源等を生かしたまちなみづくりや回遊性の向上、業務・居住地としての魅力向上、地域の特長・個性を発揮するためのエリアブランディング等の方向性を整理。
- 併せて、上記を支える空間や機能等の誘導の方向性を整理。

●中島公園駅周辺展開拠点

中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想(R3策定)

【エリア別の取組方針】



- 上記構想をベースに、MICE施設の整備を契機とした官民連携によるまちづくりを進めるため、地域資源の活用や安全安心なまちの実現、地区全体でのMICEの開催を支える機能の充実等に向けた取組の方向性を整理。

取組の方向

地域からの意見聴取等を実施しながらガイドラインを策定し、それに基づき地域と協働するまちづくりを展開する。

論点2:重点的に進める取組について、本日特にご意見をいただきたいこと

- 取組を進めるにあたって重視する考え方及び重点1～3について、不足している視点はないかご意見をいただきたい。

◎本日、ご意見をいただきたいこと

論点1 成果指標の設定について

- 目標1及び2の成果指標、目標値について一定の方向性を見出し、出したいことから、代替案含めご意見をいただきたい。
- 成果指標を補うモニタリング指標へ追加検討すべき項目について、ご意見をいただきたい。

論点2 重点的に進める取組について

- 取組を進めるにあたって重視する考え方及び重点1～3について、不足している視点はないかご意見をいただきたい。

参考資料

目標1の指標の検討

基本方針		指標案	分類※1	データ取得※2	主観／客観
1-1-1	アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成	オフィス床面積	○	中	客観
		都心の就業者数	●	中	客観
		コワーキングスペースの数	○	中	客観
		創業企業の件数	○	中	客観
		札幌市の特定創業支援等事業による支援と補助金を受け、法人設立した件数	○	中	客観
		資金調達を行った道内のスタートアップの数	●	中	客観
1-1-2	北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積	観光客数(ただし、全市)	●	軽	客観
		都心にまた来たいと思う来街者の割合	●	重	主観
		観光ボランティアガイドの人数	○	中	客観
1-1-3	多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実	オープンスペースの箇所数	○	中	客観
		都心で過ごす滞在時間	●	重	客観
		主要スポットの口コミによる評価	●	重	主観
		エリマネ団体が主催・共催のイベントやWSの開催数	○	重	客観
		イベント主催者の多様性	○	重	客観
		文化芸術施設の稼働率	○	中	客観
1-1-4	地域特性に応じた機能の誘導	用途別土地利用状況	●	中	客観

※1 ○(アウトプット):直接的な活動の成果、●(アウトカム):アウトプットによって生じた変化や効果

※2 軽:現時点で都心の現況値が把握可能、中:統計データ(既存データ)から都心に限った分析が必要、重:データ収集から始める必要があり、コストがかかる

目標1の指標の検討

基本方針		指標案	分類※1	データ取得※2	主観／客観
1-2-1	エリアの魅力や個性の発揮	エリアまちづくり活動団体数	○	軽	客観
		滞在者・来訪者等のエリアに対する印象	●	重	主観
		エリアごとの地価	●	中	客観
		旧耐震建物の減少数	○	中	客観
1-2-2	誰もが快適に過ごせる環境の整備	都心のバリアフリー客室整備数	○	中	客観
		都心のバリアフリー化が進んでいると感じる市民の割合	●	重	主観
		都心の歩道のバリアフリー化整備率	○	中	客観
1-2-3	みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成	緑被率、緑視率	○	軽	客観
		民有地緑化箇所数	○	中	客観
		都心部の公共施設や民間施設の緑化が足りていると感じる市民の割合	●	軽	主観
		HOKKAIDO WOOD BUILDINGの登録数	○	中	客観
1-2-4	札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成	都心の景観を魅力的だと思う人の割合	●	重	主観
1-3-1	都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化	SNSハッシュタグの集計	○	重	主観
全体		都心が魅力的だと思う市民の割合	●	軽	主観
		20代の転出超過率(ただし、全市)	●	軽	客観
		純付加価値額	●	中	客観
		固定資産税	●	中	客観

※1 ○(アウトプット):直接的な活動の成果、●(アウトカム):アウトプットによって生じた変化や効果

※2 軽:現時点で都心の現況値が把握可能、中:統計データ(既存データ)から都心に限った分析が必要、重:データ収集から始める必要があり、コストがかかる